

第2回 三次市まち・ゆめ基本条例検証委員会 会議要旨

1. 開催概要

日 時：令和7年10月9日（木）9時50分～11時00分

場 所：市役所本館6階 602会議室

出席者：

(委員長) 久保田 博昭 三次市住民自治組織連合会 会長

(副委員長) 佐藤 明寛 三次商工会議所 会頭

(委 員) 喜多嶋 秀美 三次市集落支援員

岡田アントニールイス 公募委員

安藤 由子 国際ソロプロチミスト三次 会長

欠席者：都合により欠席

(委 員) 松島 和枝 三良坂町自治振興区連絡協議会 事務局員

松尾 宏 三次広域商工会 会長

事務局：三次市地域共創部まちづくり交通課

2. 会議次第

1 開 会

2 前回委員会の振り返り

3 報告事項

4 協議事項

三次市まち・ゆめ基本条例検証について

(1) 意見交換

(2) 中学生まちづくり作文について

(3) 次回の会議設定

5 そ の 他

6 閉 会

【資料】

・ 三次市まち・ゆめ基本条例検証委員会意見内容まとめ

・ 令和7年度まち・ゆめ基本条例議員アンケート集計結果

3. 議 事

1 開 会

<事務局より、次の事項を連絡>

・会議録及び、委員名簿を、市のホームページ上で公開すること。

- ・会議録作成のため、会議を録音すること。
(意見等なし)

4 協議事項

(1) 意見交換

(委員)

議員アンケートについて、今までの市民アンケートや職員アンケートのようにグラフがついていないのはなぜか。特別な事情でもあるのか。ないのなら次回でも提示してほしい。

(事務局)

特別な事情はない。

(委員)

市の策定計画をまとめた資料を用意した。すべて検証したいが量が多いのでこの場で回覧するので見てほしい。

(委員)

条例が形骸化しているのでは。基本がわからなくなる。

(委員)

前回参加してみて、アンケートの中にあるいわゆる「わからない」に自分が該当すると知った。議員アンケート集計結果を見て「あれ？」と思った。やはり周知が必要だと思う。

(委員)

議員アンケートで「知らない」がゼロでよかったです、改めてこの条例を読んでみようと思った人がいるはず。正直に答えていただいたと思う。自分も最初から最後まで読んでいるわけではないが、この委員会に入ったから読んだ。自分事にならないと無理だと思う。広報に載せて見ていただいて周知ということではだめ。職員も年に1回とか定期的に周知しないといけない。

(委員)

この条例は、憲法みたいなもの。市が何かやるときには、これに基づいてやらないといけない。議員は19条を意識して熱心に活動している人としている人の差が大きいのでは。議会の責任者に確認したい。総合計画はこの条例に沿っているのか。

(事務局)

原則そうなっている。

(委員)

今、中学生が職場体験をやっている。この条例を頭に入れて体験してもらったらいい。

(委員)

いい機会だと思う。

(委員)

先日の花火大会の翌日の清掃活動で、小学生を連れた家族連れの参加があった。すごくいいことだと思う。子どもにもこういう行事に参加してもらったら達成感を味わえると思う。自治会で一人500円常会にもらえることになっていたが、子どもは一人として計上されているのか。もしされないならだしてほしい。

(委員)

各自治会で判断しているので、それぞれちがっていると思う。若い人の参加が重要な課題。職員は仕事もあるから自治会の役はやりにくい。どうしてもリタイアした高齢者になる。若い人が都会に出ていくが、中・高校くらいに自治活動に携わっていれば帰ってくるのではないか。自分のところはどうかと聞かれると「帰ってこい」とは言いにくい現状がある。

(委員)

若い人が地域に残るのは難しい。高校まで三次にいたら可能性はあると思う。どうやって三次にとどめるかが課題。

花火大会で三次高校が活躍してくれた。例えば、吉舎の花火は日彰館、八次は青陵とか互いに競い合っていいものができるのではないか。我々がいなくなつて花開くかもしれないが、それを期待してやるしかない。

自分がこの条例の中でどの立ち位置にいるのか。職員、議員も市民なのか。意識して読むことが必要。学校の授業の中で取り組むのは難しいかもしれないが、何かの時に一度目に触れておけば違うのではないか。小学生には難しいが、高校生くらいになると自分がこうしたかったら市や議員はどうやって関わってくれるのか考えるようになる。だんだんと縮小するのではなく、もっと夢を、もっと楽しいんだ、もっとワークするんだというところを前面に出していくのがいい。

(委員)

せめて前文の精神だけはみんなに伝わるといいと思う。議員アンケートを見ると他人事になっていると思う。

今、地元の自治会の会則の見直しをしている。自治会の目標の究極はまち・ゆめに書いてあること。中学生でもわかる会則にしようと思っている。まち・ゆめの提言書も過去にとらわれず子どもたちにわかるような文言にしてほしい。

(2) 中学生まちづくり作文について

応募件数及び今後の審査方法について確認。

(委員)

広報以外のPR、例えば新聞社、市役所ロビーの掲示板等、頑張ったことがわかる手立てを

考えてほしい。教育委員会を通して、学校の中で表彰をしてもらうとか。美術館、ものけに貼るとかできるだけたくさんの人の目に触れるようにしてほしい。参加者にもなにか用意できないか。

(事務局)

市のプロモーション商品を用意する。

(3) 次回の会議設定

11月13日（木）10時から開催する。